

夏休み！  
夏の歴史探訪  
Part 2



今月号は、二本松市内の歴史探訪パート2。  
「塩の道」としても知られる奥州西海道の宿場「白髭宿」を紹介します。

交通の要所「白髭宿」

江戸時代、各地の大名が自分の領地と江戸（東京）を往復する参勤交代が義務づけられました。この参勤交代にあわせ、全国に多くの道（街道・海道）が整備されました。

現在の二本松市内には、主要街道として奥州街道が整備されました。一里塚や問屋場が設置され、多くの大名たちが街道を行き交いました。

また、浜通りの相馬藩が二本松藩と協力して開いた「奥州西海道」は、相馬藩が参勤交代に使用したほか、相馬地方の海産物や塩、さらには、太平洋の船運を活用して、遠く四国や九州の産物も二本松藩などの中通りにや会津の各藩に運ばれました。

【白髭地区からみる歴史年表】

| 年代          | 白髭地区の動き   | 二本松の動き                                    | 日本の動き        |
|-------------|---|---|--------------|
| 906年        | 東安達は安達郡佐戸（佐美）郷となる                               | 安達郡が安積郡から独立                               |              |
| 10世紀頃（平安時代） | 近江国の太田氏がこの地に移り、村の名を「太田」とする<br>また、近江国より白髭神社を勧請する | 奥州管領に補任された畠山氏は田地ヶ岡（塩沢）に、吉良氏は塩松（上長折）に居を構える | 南北朝時代        |
| 1345年       |   | 石橋氏が本拠を上長折から太田の住吉山城に移す                    |              |
| 1471年頃      | この頃、白髭館にも石橋一族が入る                                |   | 江戸に幕府が開かれる   |
| 1603年       |   |   | 参勤交代が義務づけられる |
| 1635年       |   | 丹羽光重が二本松移封となる                             |              |
| 1643年       |   |   |              |
| 1663年頃      | 白髭に宿・問屋が整備され、大いににぎわう                            | 奥州西海道が整備される                               |              |



～宿場の街並み～

水の豊富な地域である白髭宿。通りの両側に小さな「堀」があって、片方が「上水」。もう片方が「下水」として活用されていた。

今は車が通れるように道路が広がったが、道を歩くと、その当時の名残りが見られる。

江戸時代の「白髭町」  
「白髭町」と呼ばれ、海道の宿場町として栄え、本陣には、相馬の殿様が宿泊しました。問屋には、当時の繁栄を記した問屋経営の記録が残されています。  
塩や海産物、石灰などの商いの記録のほか、琉球人が通った記録や、はるばる中国から「ラクダ」が来た記録も残されていました。



江戸時代の  
「宿場」を  
歩いてみよう!!

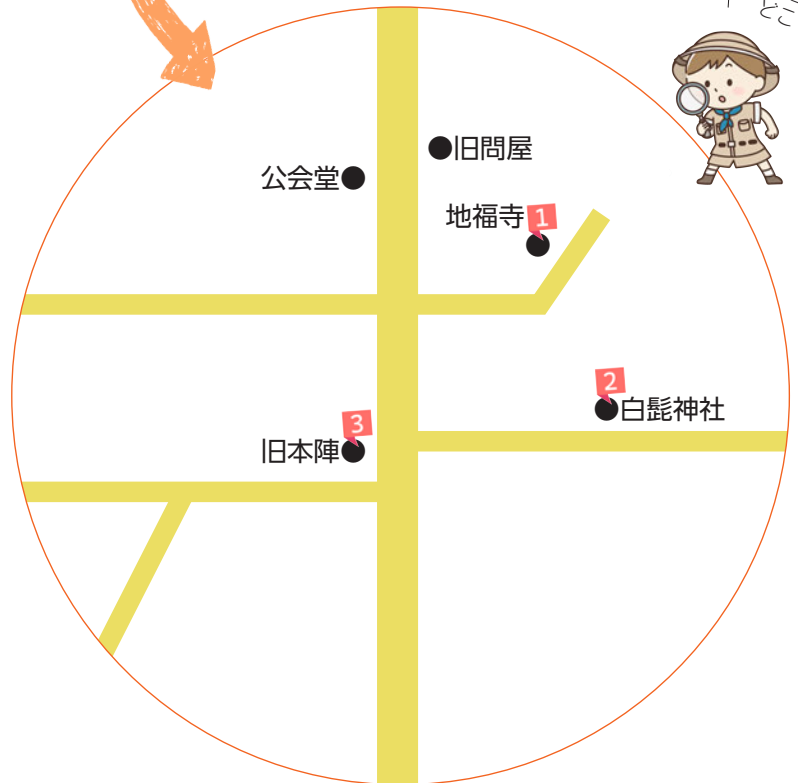


1 ~地福寺~

開祖の目範上人が永正15年(1518年)に亡くなったと伝えられているため、500年以上前には寺が開かれていたと考えられる。

寺の敷地に建つ宝篋印塔は、宝暦10年(1760年)に建てられたもので、市指定文化財に指定されている。

また、明治6年(1873年)上太田小学校発祥の場所でもある。



2 ~白髭神社~

安和2年(969年)太田氏が近江国(今の滋賀県)から移ったときに、白髭神を勧請して、この地の守り神としてまつった。

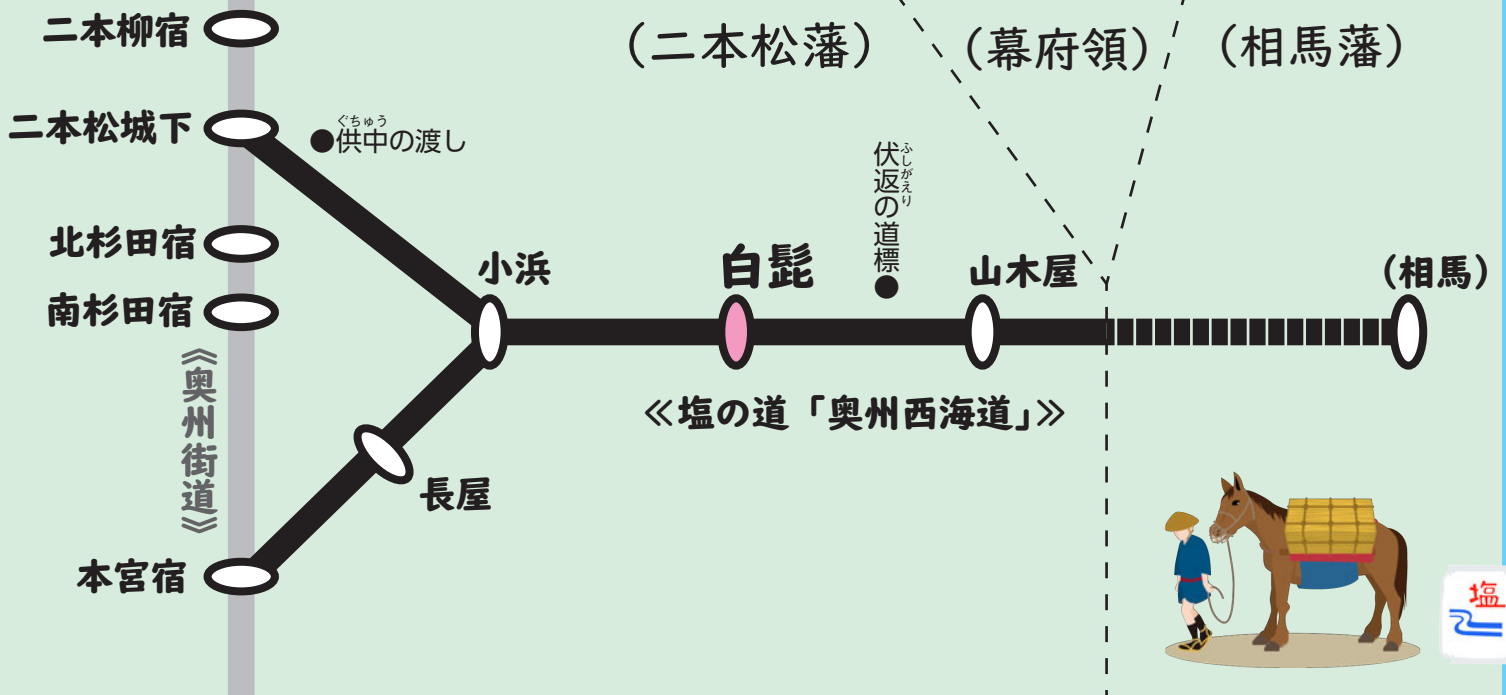
なお、現在の社屋は、火災や大雨による移転、再建を経たもの。



3 ~旧本陣~

宿場での「本陣」とは、参勤交代の大名や公家、幕府役人などが公用の旅で宿泊する宿舎のこと。

白髭宿には、歴代の相馬藩主が宿泊した。大きな蔵が当時の栄華を感じさせる。



1\_伏返の道標(戸沢) 東西南北4方向に街道の名前やの行き先が記されている。  
 2\_供中の渡し(安達ヶ原) 橋の北側に舟渡し場があったと言われる。

**塩の道「奥州西海道」**  
 相馬から「枋窪」「八木沢」「関沢」「飯樋」「比曾」を通り、二本松藩では「山木屋」「白髭」「小浜」を通ります。その後、今の大平地区安達ヶ原から阿武隈川を渡り、二本松城下へと向かいました。  
 また、参勤交代での相馬藩は小浜から「長屋」を経て「本宮」で奥州街道に出ました。  
 海道沿いには、今でも道標が残っているとところもあり当時の面影が偲べれます。



3\_①明神の遊び石  
 4\_③蛙石  
 5\_⑤椿石  
 6\_⑥庚申塔立石  
 7\_⑧二十三夜塔

※②④⑦は、巨石に通じる道が危険なため、現在、近くに行くことができません。  
 ※⑧二十三夜塔(市指定文化財)

**自然の巨石「白髭八景」**  
 白髭地区には、多くの巨石が存在し、その中で特に大きいものが「白髭八景石」と呼ばれます。  
 ①明神の遊び石  
 ②呼びり石  
 ③蛙石  
 ④潜り石  
 ⑤椿石  
 ⑥庚申塔立石  
 ⑦博打石



※本号で取り上げた内容は「東和町史」、昭和43年にまとめられ平成12年に出版された上太田地区の「郷土誌」(三浦猛義氏著)および地域での言い伝えを基にまとめたものです。別の資料や今後の研究などにより、新たな事実の発見または、異なる解釈がある場合があります。あります。  
 ※本号で紹介した場所には、私有地も含まれます。私有地では、それぞれの方の生活が営まれていきますので、許可なく、みだりに立ち入ることのないようお願いいたします。



道の駅「さくらの郷」  
 二本松市東新殿字平石田12-2



道の駅「ふくしま東和」  
 二本松市太田字下田2-3